評価において負荷心電図より有用な方法であると思われた.

8. Kr-81m ガス持続吸入による安静呼吸時の各種ファンクショナルイメージ

瀬尾　裕之　宮本　勉　松野　慎介
川崎　幸子　佐藤　功　玉井　豊理
田辺　正忠　(香川医大・放)
川瀬　良郎　(国立療養所高松病院・放)

換気シンチグラフィを用いた肺機能検査の一つとして呼吸同期法が注目されている. われわれも, Kr-81m を用いてのルーチン肺換気検査の一つとして座位後面像をリストモードで記録し, 各種のファンクショナルイメージを作成したので報告する.

正常例および肺気腫例の tidal activity component, phase image, amplitude image, fractional variation image, time difference image, $T_1/(T_1+T_2)$ などの各種ファンクショナルイメージを交互に比較して呈示した. 今後は種々の肺疾患に, 各種ファンクショナルイメージと前回発表した因子分析などを用いて吸機能検査としての有用性を検討していきたい.

9. SPECT を用いた腎機能指標の算出

村瀬　研也　石根　正博　善家　正昭
重沢　俊郎　伊東　久雄　河村　正
飯尾　篤　浜本　研　(愛媛大・放)

SPECT による ^{99m}Tc-DMSA 腎摂取率, 腎容積の算出を行い, 腎機能正常例12例, 閉塞性腎症41例について臨床的検討を行った.

SPECT による腎摂取率は閉塞性腎症において腎盂・腎杯の拡張の程度が増すにつれ, 低下傾向を示した.

腎容積は腎盂・腎杯の拡張が軽度の時は減少が認められず, 高度の時に減少する傾向が示された.

10. SPECT による肝放射活性の基礎的および臨床的検討

粟井佐知夫　平木　祥夫　佐藤　伸夫
藤島　護　中村　哲也　森本　節夫
林　英博　西原　忍　永谷伊佐雄
青野　要　(岡山大・放)
佐藤　四三　三村　久　折田　薫三
(同・一外)
三谷　健　辻　孝夫　(同・一内)

SPECT により肝容積および Sn colloid の摂取率を定量する方法を考案し, この方法により各種びまん性肝疾患において検討した.

対象は, 健常ボランティア8例, 肝硬変17例 (Child A 10例, Child B, C 7例) 慢性肝炎6例, アルコール性肝障害1例とした. 肝容積は, Child B, C で萎縮傾向があり, 脾容積は, Child B, C で腫大していた. 肝摂取率は Child A, Child B, C で低下していたが, 単位容積あたりでは, Child B, C のみで低下がみられた. 脾摂取率は, Child B, C で増加していたが, 単位容積あたりでは有意差は認めなかった.

11. 肝癌に対するリピオドール動注療法における肝血流シンチの意義

石井　敏雄　神波　雅之　三原　修
益井　謙　磯田　康範 (松江日赤病院・放)
堀　郁子　(鳥取大・放)

リピオドール動注前後での肝動脈血流の変化がリピオドール自体の塞栓効果の指標となりうると考え, 動注前後での ^{99m}Tc-phytate を用いた肝血流シンチを行い, 肝動脈血流比の変化を測定した. 対象は原発性肝癌8例, 転移性肝癌5例の計13例である. 動注前日に ^{99m}Tc-phytate 10 mCi を右肘静脈より急速注入による肝血流シンチを行い, 動注当日は固有肝動脈よりリピオドール 6～15 ml, アドリアマイシン 40 mg etc. を動注した. その2日後, 肝血流シンチを再検した. 結果は13例中8例において肝動脈血流比の低下を認め, 以上からリピオドール動注による肝動脈の塞栓効果が推察された. 今後, 症例を重ねて詳細な検討を行いたいと考えている.

Presented by Medical*Online